

地域アカデミーin立子山2024
2024年5月25日（土）

福島の偉人・朝河貫一に学ぶ

～朝河博士を育んだ立子山の風土検証と共に～

甚野尚志（早稲田大学文学学術院）

18. 妻ミリアムの死とハムレット論の執筆

1913年2月,妻ミリアムの突然の死。

1914年1月, J. Forbes-Robertsonが演じるハムレットについてハムレット論を執筆。亡き妻に献呈。

「自分は,日本の封建制の起源について主として研究しているが,私の気まぐれな精神は,なお文学や哲学をさまよう。日々10時間,制度史の研究をする一方、我が魂は,30分はシェイクスピア,ブラウニング,ベルクソン,ポワンカレを追い求める。」

20年前,シェイクスピアの授業（おそらく逍遙の授業）に出たことにも言及。

“The Tragic Career of Hamlet considered as a real Person,” Asakawa Papers, Box 7, Folder 75, Yale University

THE TRAGIC CAREER OF
HAMLET
considered as a real person.

DEDICATED to the
one
who, leaving my side a year ago,
on February 4, 1913,
has given me the light
that has made this writing possible,
and that shall increase.

Written January 19-22, and
typewritten February 6 and 7, 1914.

Revised Mar. 2-12.

*This copy has been read by
J. F.-R., Feb. 20 - Mar. 9, 1914;
Rev. N., Jan. 14 - June 17, 1914.*

K. Asakawa.

19. ダイアナ・ワッツとの交際と ヨーロッパ滞在



1915年2月,ダイアナ・ワッツ（柔術家,体操理論家）と彼女の体操教室で出会う。

1915年6月から9月,第一次世界大戦中のヨーロッパに行き,調査を行う。

夏の一か月間,ダイアナ・ワッツが所有するカプリ島の別荘に滞在。朝河は求愛するが失敗。

この初めてのヨーロッパ滞在により,中世ヨーロッパ文明への見識を深めた。とくにイタリアで,古代・中世・ルネサンスの絵画,教会,遺跡に感動する。

写真 1915年の夏,カプリ島にて。ダイアナがポーズを取らせて撮影したものだろう。ダートマス大学資料室蔵。

20. 『入来文書(The Documents of Iriki)』(1929年)までの比較封建制研究

1910年代から20年代の主要論文

“The Origin of the Feudal Land Tenure in Japan,” *American Historical Review*, XX-1,1914.

“The Life of a Monastic SHO in Medieval Japan,” *Annual Report of American Historical Association for 1916*, I, 1916.

“Some Aspects of Japanese Feudal Institutions,” *The Transactions of the Asiatic Society of Japan*, XLVI-1,1918.

“The Early Sho and the Early Manor:A Comparative Study”, *Journal of Economic and Business History*, no.2,1929.

(邦訳, 矢吹晋 編訳『朝河貫一比較封建制論集』 柏書房, 2007年)

- (1) 日本の荘園は最初から封土ではない。12世紀から15世紀にかけて荘園が封土になり西欧と類似の支配形態としての封建制が完成する。
- (2) 日本の荘園と西欧のマナーは村落構造と農業形態で根本的に異なる。日本は水稲耕作中心の農業。西欧のマナーのような村落共同体は形成されない。水田の個別的所有。領主直営地はわずかしかない。
- (3) 日本では西欧のような農奴は法的に存在せず、農民が独立的に水田を耕作した。



(右の写真) イェール大学図書館で研究する貫一。ダートマス大学資料室蔵。

21. 第二回目の帰国(1917-19年)

1917年,第二回目の帰国。日本古典籍収集と日本中世史研究のため,東大史料編纂所に留学。

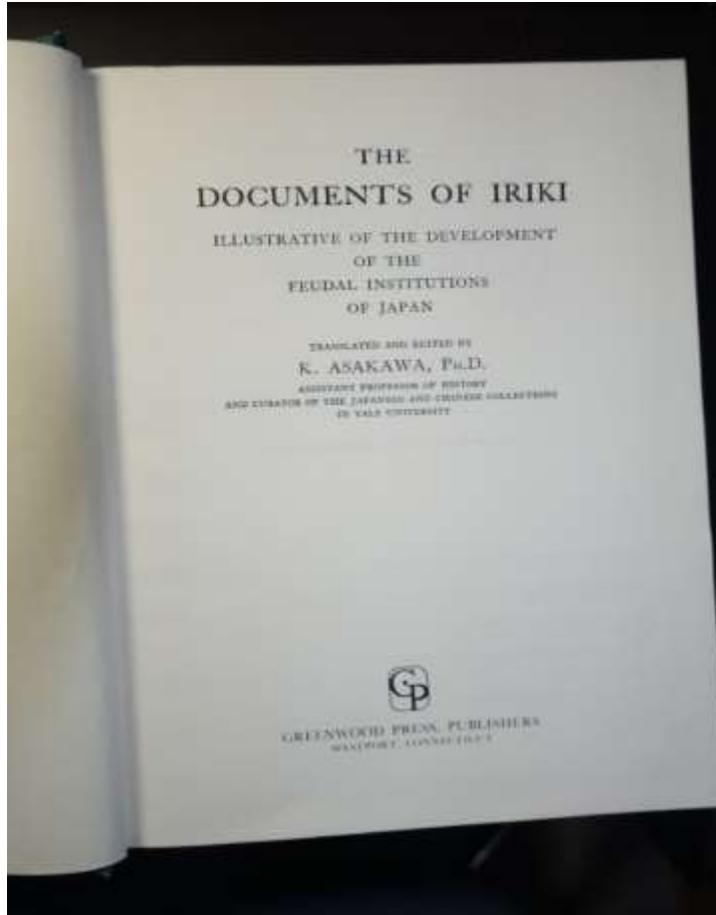
1918年,日本帰国時にベラ・アーウィン(日本の幼児教育に献身)と出会う。交際の後,別離。

1919年,「入来文書」に着目。これを日欧封建制比較の素材として選び,6月,鹿児島県薩摩郡入来村に滞在し現本調査。9月,米国に帰る。

(写真の出典 Photoguide.Jp-by Philibert Onoのサイトより)



22. 『入来文書 (The Documents of Iriki)』の刊行



1920年頃, イェール大学の財政難による教員削減で,朝河は,日本史を教える任期付き助教授(Assistant Professor)を解任されそうになる。

だが,歴史学部の教授らの尽力で,1923年より,中世ヨーロッパ(とくにフランス)の封建制の講義と演習を大学院で担当することで解雇を免れる。

これ以降定年まで,西洋中世史の研究と授業にも専念。1929年,The Documents of Iriki をイェール大学出版会より刊行。

1930年,歴史学准教授。

1931年,マルク・ブロックによる『入来文書』の評価。

23. 研究への精進一父・朝河正澄に学んだ生き方

1946年8月6日の日記に書かれた長歌「精進」

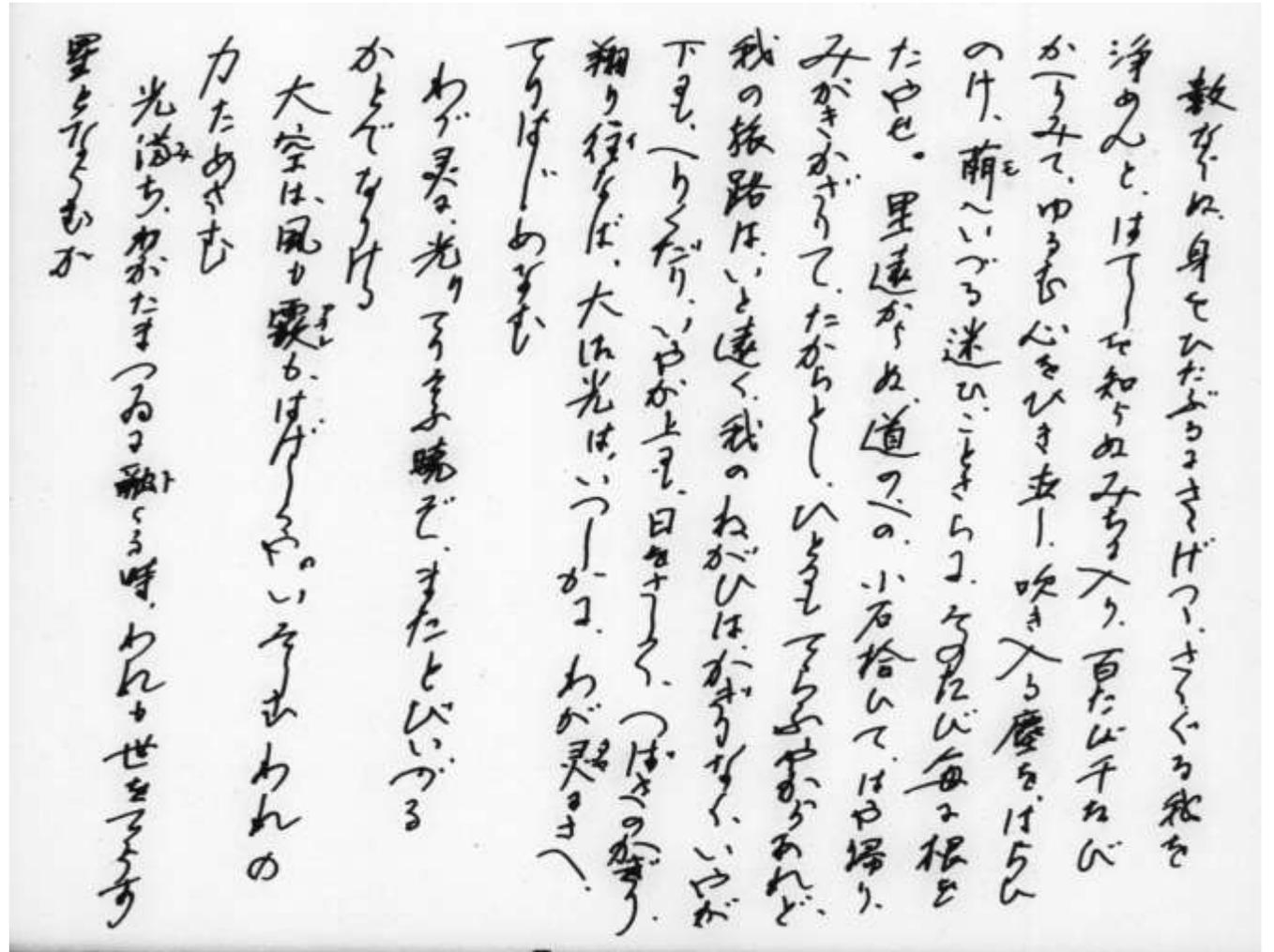
「光満ち、わがたまつみに融くる時、われも世を照らす星とならむか」
(Asakawa Papers, Yale University, Box 6, Folder 56)

規則正しい日課に従った生活

(1925年2月頃の日記に書かれた日課表)
月曜の欄

- 7時30分-8時⇒欧
- 8時-8時30分⇒朝食
- 8時30分から9時⇒雑多
- 9時から11時⇒writing at library
- 11時から12時⇒class
- 12時から13時⇒休憩
- 13時から16時⇒class
- 16時から19時⇒休憩
- 19時から21時⇒notes
- 21時から22時⇒欧法書

月曜から土曜まで日々10時間の研究。
日曜は9時朝食、手紙と雑読の日。



24. 福島への想いー姪・斎藤花子の洋裁学校への資金援助

姪の斎藤花子が福島市で始めた洋裁学校（和洋技藝女学校, 福島市上町）の校舎増築の資金援助をまだ会ったことのない伯父・朝河に求める。朝河の写真を拡大し部屋に飾る。日本への帰国を願う。
[1938(昭和13)年7月31日付]

(福島県立図書館蔵「朝河貫一資料」 B-70-1)

心細くほりませぬ時ありませぬ。下切い時
思ふ事を通さほいと。きかほい花子嬢々
希望に近きは。ほりませぬ。
伯父様 教へ下さいませ。よき教育者に
なませね。 今では此の学校は
では狭い位なり。裏に南さへ申し
す。南病院の空地ありませぬら
糸を買水ませ振動ありと。くいの
けいも。糸を仲々。一人の力は未
どうかありませぬ。南さへは
伯父様のお友達に。ら。いませぬ
伯父様。ふつのは。姪の。何と力に
は。下さいませ。此の学校は福島に
無と。ほうほい。姪に。ほりませぬ花子
心に。や。ほりませぬ。遠い所。ら。いませぬ
伯父様。祈つて。下さいませ
伯父様。富貴も。たまの。お都
に。カサ。ありませぬ。さ。下。元
に。下。ませね。早と。日本に。帰
東。不。神様。お祈り。いた
せりませぬ。返。下。持。せりませぬ
田舎の方。別に。変。なく。暮。下
と。り。ま。下。さ。い。ませ
日本。此。項。は。毎。日。雨。下。国。り。ま
今。は。夏。休。下。時。我。は。ヒ。ラ。リ。い。た。下
と。り。ま。下。さ。い。ませ
伯父様
福島県 福島市 上町 十一番地
和洋技藝女学校
朝河 花子
昭和十三年七月廿一日

25. 「対華21カ条の要求」に対する批判

1915年1/10の大隈重信宛書簡。日本の第一次大戦参戦と膠州占領、大隈内閣による袁世凱政府に対する「対華21カ条の要求」を批判。

「日本が膠州を中国に返せば、世界でまた東洋で日本が得るだろう
将来の利益は、戦争での損失を償ってはるかに余りある。---
日本がもし文明世界の憎まれ者となれば、日本の恃むところは自国
の兵力のほかになくなる。---そして日本人は他国に対する信義の念、
世界の共通の文化に対する貢献などの情を失い、世界に向かい、いか
なる詐欺、卑劣な行為、野蛮を行うことも認めるようになる。」

26. 満州事変後の軍部に対する批判

1932年2月14日付の 大久保利武宛書簡。内大臣牧野伸顕への回覧を求める。満州事変後の軍部批判。

「日本の満州侵略は、満州を併合し、大きな利益を得るためと見做されている。日本が満州事変を自衛行為だとする主張は、世界の嘲笑の的となっている。今度の日本の根本的誤りは、日本と中国との間の難局を、兵力で一気に解決できると思ったことにある。軍事により、財産の破壊、流血殺傷、深刻な憎悪が生まれるだけである。日本が軍国となれば農民は窮地に陥り、危険思想がはびこり、中国と列国を敵として日本は孤立する。国家百年の計を害するものである。」



27. グレッチェン・ウォレンとの文通

グレッチェン・ウォレン(Gretchen Warren)は、女優、歌手、詩人。朝河とは1915年に知り合う。以後、生涯にわたる文通相手。第二次世界大戦をめぐる問題について多くの書簡を交換している。朝河は太平洋戦争勃発後1942年から1943年前半、集中的に「国民性」の研究を行ったが、それは彼女からの、日本人の「国民性」はどのようなものかという問いに答えたもの。約800頁のノートを作成。その後、また本来の研究に戻る。「国民性」の研究は日曜日に行うようになる。

写真 アメリカの画家ジョン・シンガー・サージェントの作品「フィスケ・ウォレン夫人と彼女の娘レイチェル (Mrs. Fiske Warren (Gretchen Osgood) and Her Daughter Rachel)」(ボストン美術館蔵)

28. グレッチェン・ウォレン宛書簡 (1940年7月7日付)

- (左) 朝河自筆版---イェール大学バイネッケ図書館所蔵「朝河発グレッチェン宛書簡集」
(中) グレッチェンがタイプで打ち直した版---スターリング図書館所蔵「朝河貫一文書」
(右) 朝河のタイプによる控え版---福島県立図書館所蔵(D-131-13)

K. Asakawa 3
7/7
Saybrook College
YALE UNIVERSITY
New Haven, Conn.
July 7, 1940

Dear Friend

Pray forgive me as I again presume to vent upon you my self-communion which can be of little interest to any one. Only the present predicament of France and the recent British treatment of her fleet have deeply stirred me.

Before I turn to these topics, I wish to add a word to what I said in my last letter concerning my belief that the Hitler rule over the nations will be short-lived.

Recently the suspicion I had had for a long time was confirmed by one of Mr. Harold Nicholson's writings, who as you know as a British diplomat in Germany had observed at close range for several years. There appears to be a curious weakness inherent in Hitler's makeup as a man. Granting that he had extraordinary gifts as a popular leader - his ability to spellbind the masses by his oratory and to utilize every opportunity to fasten his hold upon them; his uncanny cleverness in detecting and exploiting weaknesses in others; his great persistence and will power to

New Haven, Conn.
July 7, 1940

Dear Friend,

Pray forgive me as I again presume to vent upon you my self-communion which can be of little interest to any one. Only the present predicament of France and the recent British treatment of her fleet have deeply stirred me.

Before I turn to these topics, I wish to add a word to what I said in my last letter concerning my belief that the Hitler rule over the nations will be short-lived.

Recently the suspicion I had had for a long time was confirmed by one of Mr. Harold Nicholson's writings, who as you know as a British diplomat in Germany had observed at close range for several years. There appears to be a curious weakness inherent in Hitler's makeup as a man. Granting that he had extraordinary gifts as a popular leader - his ability to spellbind the masses by his oratory and to utilize every opportunity to fasten his hold upon them; his uncanny cleverness in detecting and exploiting weaknesses in others; his great persistence and will power to

To G. W. 7 VII 40.

Dear Friend,

Pray forgive me as I again presume to vent upon you my self-communion which can be of little interest to any one. Only the present predicament of France and the recent British treatment of her fleet have deeply stirred me.

Before I turn to these topics, I wish to add a word to what I said in my last long letter concerning my belief that the Hitler rule over the nations will be short-lived.

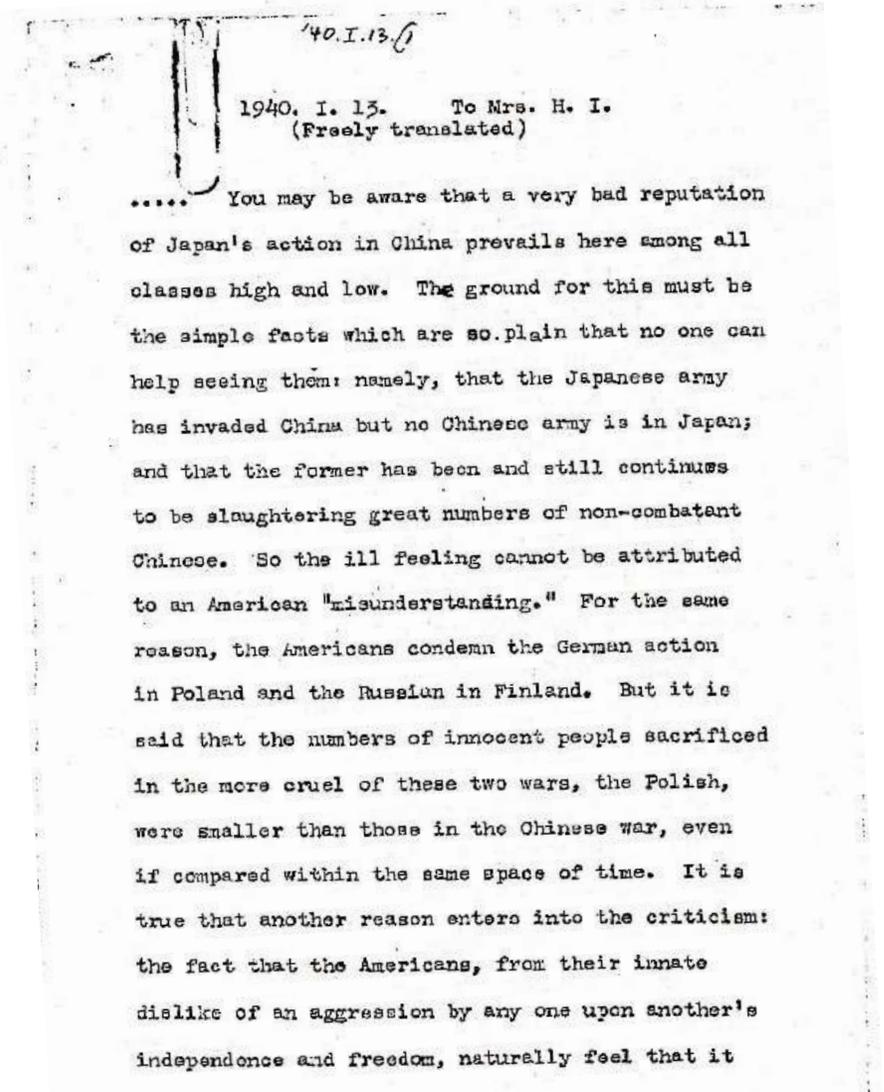
Recently the suspicion I had had for a long time was confirmed by one of Mr. Harold Nicholson's writings, who as you know as a British diplomat in Germany had observed Hitler at close range for several years. There appears to be a curious weakness inherent in Hitler's makeup as a man. Granting that he has extraordinary gifts as a popular leader--his ability to spellbind the masses by his oratory, and to utilize every opportunity to fasten his hold upon them; his uncanny

29. 「公開書簡(オープンレター)」による戦争回避への努力

朝河は重要な書簡を「公開書簡（オープンレター）」としてアメリカの友人たちに送っていた。「公開書簡（オープンレター）」とは自身や友人からの書簡をタイプで打ち直し、カーボンで多くのコピーを作成して友人たちに送り内容を共有した書簡。朝河は「オープンレター」を送ることで、戦争に向かう現状分析をアメリカの友人たちに発信していた。

右は日本女子大学長の井上秀子に送った書簡(1940年1月13日付)を自身で英訳し、タイプで打ち直したオープンレターの控え。内容は日本軍の中国侵略と日米関係の悪化を憂慮するもの。

福島県立図書館所蔵 D-61



30. 日米開戦を回避する努力

1941年10月10日付の金子堅太郎(枢密院顧問官)宛書簡。英訳をアメリカの友人に回覧。日本はナチス・ドイツに追随してはならない。天皇の聖旨の必要性。

「ドイツが早晩、ヨーロッパで失敗するであろうことを私は最初から疑っていない。もしドイツの敗北が遅ければ、日本が致命的な戦禍に巻き込まれ、ドイツの毒牙が東洋に延びることもあろう。日本はその前に一刻も早く対策を立てるべきである。---もし軍部自身が慶喜と海舟ほどの勇退を敢行する道義的な勇気がなければ、天皇の聖旨を申請して断行するほかないであろう。」

31. 「天皇宛大統領親書草案」の作成



1941年11月23日,朝河は天皇への大統領親書草案を作成し,ラングドン・ウォーナーに送る。

ウォーナーは大統領の側近たちに渡す。ペリーの親書から説き起こし,ポーツマス講和会議でのアメリカの友好も強調。平和への願いを込める。

朝河が作成した「大統領親書草案」は、福島県立図書館にある版とまったく同じ版がグレッチェン・ウォレンにも送られている。おそらくカーボンによるコピーを多数作成し,友人たちに送っていたとみられる。

福島県立図書館蔵 D-133-4

32. 日本人の国民性と「象徴天皇制」の提言

(1) ラングドン・ウォーナー宛書簡の草稿(1946年夏)---日本人の国民性と太平洋戦争に至った経緯を述べる。ウォーナーは1946年2月から8月まで連合軍美術顧問として日本に滞在。

(論点)

1. 政治的思考の訓練の欠如。漢字熟語により思考が左右され, 自由な思考ができない。
2. 民主主義を実現できない日本人の習性－妥協, 追従, 黙認。
3. 対決の危険を冒しても個人の権利や信念を守ろうとする個人的義務感が育たなかった。
4. 専制政治ではない天皇制の性格。天皇制廃止の場合の混乱。

(2) 村田勤 宛書簡(1947年11月30日付)

日本人の国民性として, 「無私の反省と無争の迎合」の問題点を指摘する。



おわりに－朝河貫一の業績

1. Historian(歴史家)

日本の封建制の研究,日欧比較封建制論の研究で,
欧米の世界で高く評価された。

マルク・ブロック,オットー・ヒンツェの書評。

2. Curator(東アジア図書部長)

イェール大学で日本・中国関係図書の収集作業
を行う。とくに日本研究の基礎資料を集めた。

3. Peace Advocate(平和の提唱者)

日本やアメリカの知識人に多くの書簡を送り,
日本の国際的な孤立に警鐘を鳴らし,日米開戦
を阻止しようとした。

